

## 弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	総排泄腔外反症・総排泄腔遺残症の長期経過例の検討			
2. 対象患者	当科において外科的治療を施行した総排泄腔外反症・総排泄腔遺残症例のうち18歳以上症例4例			
3. 対象となる期間	1997年4月1日		～	2017年3月31日
4. 実施診療科等	弘前大学小児外科			
5. 研究責任者	氏名	平林 健	所属	弘前大学小児外科
6. 共同研究機関 (共同研究機関研究責任者)	なし			
7. 研究の意義	<p>女児の直腸肛門奇形の術後成績は良好と言えるが、泌尿生殖器に病変が及ぶ総排泄腔遺残症および総排泄腔外反症症例の、術後長期の女性機能に関しては未だ詳細に検討されていないのが現状です。特に、女性機能の評価は、術後長期にわたる経過観察が必要と考えられます。今回、当科での長期経過例を検討し、その問題点を明らかにしたいと思います。</p>			
8. 研究の目的	<p>当科で治療した総排泄腔遺残症および総排泄腔外反症例のうち18歳以上の例の、既往、手術時年齢、手術術式、術後の排便機能・女性機能を比較検討します。</p>			
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する場合はの方法等)	<p>診療録を利用し、性別・手術時年齢・手術術式・既往を検討し、手術時年齢・手術術式・既往と術後の排便機能ならびに女性機能を検討を加えます。</p>			
10. 個人情報の保護	<p>患者個人が特定される情報を公開することはありません。研究結果は学会等で報告されます。</p>			
11. 利益相反に関する状況	<p>本課題の研究代表者が所属する講座では、(株)ヤクルト本社、中外製薬(株)、アステラス製薬(株)、大鵬薬品工業(株)から寄附金を受領しており、利益相反状態にありますが、これらは本課題の資金源ではなく、研究は講座の研究グループによって公正に実施されます。本研究の利益相反状態については、弘前大学大学院医学研究科医学研究(臨床研究等)利益相反マネジメント委員会の審査を受けています。</p>			
12. 連絡先	弘前大学医学部附属病院小児外科 平林 健			
	電話	0172-39-5079	FAX	0172-39-5080